わが家のすこやか日記

「夢育」：一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育　（岡山県教育委員会）

安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実はほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。

夢育アドバイザー（岡山県）中山芳一

ランドセル

マンガ／きびちゅー

作品

幼児部門

もうすぐいちねんせいになるので、かぞくみんなでランドセルをえらびました。なにいろがにあうかな、どんなもようがかわいいかなと、えらびました。12さいになるまでつかうんだよといわれました。12さいのちひろってどんなかんじかなとみんなでかんがえました。おおきくなるってドキドキするな。

注目!

夢育ポイント

小学校の入学準備、大変ですよね。中でもランドセルは大切に使ってほしいと願いながら、子どもと慎重に選ぶことが多いですね。「６年間、使うんよ、本当にこれでええんじゃな」と、あるあるな場面ですが、この日記の注目すべきは「１２歳の主人公の姿を家族みんなで考えた」ところです。

子どもに何年後の自分という見通しを持たせると良いように、大人も少し先の子どもの姿を想像することは良いことがあります。目の前の状態がいつまでも続くと思うと苦しくなったり、目の前のことばかりを見ていると、負の無限ループに陥ったりするものです。ネガティブなことはいつまでも続きません。気持ちを切り替えるためにも、少し先を想像してみてはどうでしょう。（中山芳一）

※この資料についてのお問合せは、岡山県教育庁生涯学習課（086-226-7597）まで。